

〈 MOUNT SYTEM 取付場所をセルフチェック！ 〉

車種別適合表に自分のバイクの適合情報がない場合でも、以下にご案内するセルフチェック項目をクリアすれば、マウントシステムが取付られるか自分で確認することができます。

◆MOUNT SYSTEMは、Aパーツ（ホルダー部）、Bパーツ（アーム部）、Cパーツ（車体取付部）の3つの構成部品を組み合わせるご使用頂きます。Cパーツの取付位置を確定出来ればマウントシステムを取付られる可能性が高くなります。

◆Cパーツは主に、ハンドルパイプ部に取付ける「クランプベース」、セパレートハンドルのトップ中央の穴に取付ける「ステムベース」、その他ミラー部やレバーホルダーなどに取付けるベースをラインアップ。各パーツの仕様を参考にして、取付可能Cパーツを探してください。

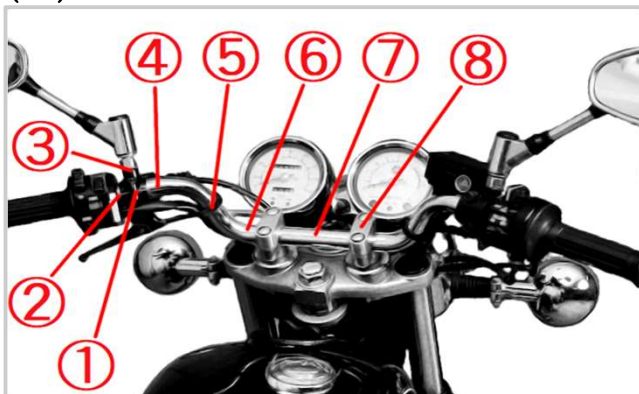
■Cパーツ仕様

	<p>『クランプベース』 C-40 (パイプ径22.2mm) C-41 (パイプ径25.4mm) C-42 (パイプ径28.5mm) C-43 (パイプ径31.8mm) ※厚み:14mm (共通)</p>		<p>『クランプベース』 C-27 (パイプ径22.2mm) ※厚み:5mm</p>
	<p>『ステムベース』 C-15 内径12.8mm用 (約12.2~13mm対応可) C-16 内径15.8mm用 (約15~17mm対応可) C-26 内径12.8mm用 (約12.2~13mm対応可)</p>		<p>『ステムベース』 C-32 内径17~20mm用 C-33 内径23.2~25mm用</p>
	<p>『ミラーマウントベース』 C-37 M8/M10対応 ※車種により別途ボルト・ミラーアダプターが必要</p>		<p>『レバーホルダーベース』 C31 22.2mmハンドル対応 ネジ間ピッチ30~40mm</p>

CHECK ① 【 ハンドルのタイプを確認する 】

下記、A～Cタイプのいずれに該当するかを確認し、現車の取付可能位置を探す。

(A) バーハンドル



(B) セパレート



(C) その他、スクーターなど

(A)・(B)を参考にして取付可能位置を確認する

(取付可能位置)

- ①レバークランプ部 ②スイッチボックス/レバークランプ間 (Bタイプの場合はレバークランプ内側の場合あり)
③ミラー部 ④バー上部 ⑤バー中間 ⑥バー下部 ⑦バー中央部 ⑧ハンドルクランプ部 ⑨ステムホール部

CHECK ② 【 安全に取付可能か確認する 】

取付可能位置を見つけたら、その位置に正しく取付可能かどうかを確認する。
特に注意すべき①～③の赤丸部分に関して、下記内容を確認してください。

①



②



③



- ① クランプベースの取付可能位置を見つけたら、パイプ径が均一(クランプベース幅分)かどうか確認する。パイプ径が均一ではない部位(テーパ部や曲げ部)に取付をすると、適正な取付トルクで固定する事が出来ず、製品の脱落や車体への損傷を招く恐れがありますので必ず確認してください。
- ② Cパーツを取付した際に、ハンドルに取付られている他の部品やハンドルを左右に切った際に干渉する恐れがないかを確認する(※特にグリップ付近やミラーマウントベース使用時に注意)。
- ③ センター部に取付可能な場合は、メーターの視認性やキーシリンダーへの干渉など、安全性や操作性を妨げる可能性がないかどうか確認する(※特にステムベース使用時に注意)。

《取付時の注意事項》

- ・取付場所は、走行時の操作の妨げになったり、メーターの視認性を著しく損なわないよう注意願います。また、ハンドル際にタンクやカウル、風防等などの車体に干渉しないよう注意してください(実際の使用状況や使い勝手を加味する)。
 - ・Cパーツの取付位置はハンドル中央～左側を想定していますので、可能な限り想定内の装着確認をお願いします。
- ★最終確認の際には、必ずAパーツとBパーツの両方を装着し、干渉や不具合等が無いことを確認してください。

CHECK③ 【 取付イメージを確認する 】

■ 良い取付例



☆メーターの視認性良好・車体干渉無い取付状態 (使用マウント:A-45/B-6/C-22)



☆メーターの視認性良好・車体干渉無い取付状態 (使用マウント:A-45/B-6/C-37)

■ 悪い取付例



✕ハンドル操作時スクリーン干渉



✕ハンドル装備品に干渉



✕テーパー部に取付した為、クランプに隙間あり



✕取付部隙間あり (C-27)